

## 米品質向上のポイント

- ① 堆肥・土づくり肥料を施用し地力を高める
- ② 適正な植付本数の実施（過剰生育の抑制）
- ③ 活着後の間断かんがいの実施
- ④ 中干しの実施（過剰分けつ抑制）
- ⑤ 早期落水をししない（出穂後30日を目安、乾燥が速くは、走り水の実施）

## 生産基準と管理 (使用量10a当たりの目安)

### 「おいしい米づくり」を目指すなら 目標：食味値85以上

【おいしい米づくりのポイント】  
品種にあった環境、栽培条件等を整え健康で食味の良い米を作ろう！

＜栽培のポイント＞

- 土づくりで地力を高める  
適正な地力が食味向上に影響するため、土壌診断結果に基づく土壌改良、施肥を行う。（鉄分、ケイ酸分等の施用）
- 有効茎数の目安  
○栽培密度ごとの必要茎数（収量540kg/10a）

品種	50株/坪 (株間22cm)	60株/坪 (株間18cm)	70株/坪 (株間15cm)
コシヒカリ	24本/株	20本/株	17本/株
ひとめぼれ	24本/株	20本/株	17本/株

●適期田植えの助行  
登熟期の気温が食味に影響するため、早生品種（コシヒカリ、ひとめぼれ）の早期田植えをおこなわない。

●収量構成要素  
○収量600kg/10aを目指す場合の収量構成要素

品種	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	1穂粒数 (粒/穂)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g/千粒)
コシヒカリ	370本	80粒	82.9%	22.2g
ひとめぼれ	380本	75粒	82.9%	22.9g

### 「多収穫生産」を目指すなら 目標：収量600kg/10a

【多収穫生産のポイント】  
穂数の確保と登熟の向上により多収穫を目指す！

＜栽培のポイント＞

- 必要茎数の確保  
○収量600kg/10aを目指す場合の栽培密度ごとの必要茎数
- 必要茎数の確保  
○収量600kg/10aを目指す場合の収量構成要素

品種	50株/坪 (株間22cm)	60株/坪 (株間18cm)	70株/坪 (株間15cm)
コシヒカリ	27本/株	22本/株	19本/株
ひとめぼれ	27本/株	22本/株	19本/株
中生新千本	29本/株	24本/株	21本/株
あきろまん	25本/株	21本/株	18本/株

●基本的には一発肥料ではなく分肥（基肥+穂肥）を実施する。（生育、葉色に応じた施肥管理）

●水管理（間断かんがい、中干し等）を徹底し、根量を増やし、健全に維持する。

### 水がしと播種日の目安(例)

品種	水がし開始時期	播種時期	田植時期
早生種	4月10日	4月20日	5月15日
中生種	4月20日	4月30日	5月20日

## 種子消毒

※消毒済み種子（ブルーに着色された粉）は⑤水がしから始めてください。

- ① 塩水選  
塩水により不良もみを除去する。
- ② 水洗い  
水洗いで塩分を落す。網袋へ7分目程度に詰める。（水切りを充分にすること）
- ③ 消毒  
水20リットルに対しアクリノールCフロアブル100ml(200倍液)を溶し、24時間浸漬効果を安定させる為、10℃以上(15~20℃が最適)の水で浸漬する。（乾燥10kg消費量）
- ④ 風乾  
24時間以上日陰で風乾
- ⑤ 育苗管理  
育苗器使用の場合  
出芽温度28~30℃  
1~2日間にする。  
温度管理に十分留意する。
- ⑥ 播種  
●播種量（1箱当たり）  
●育苗器使用の場合  
●床土の消毒で苗立枯・カビ予防を行う
- ⑦ 芽だし  
30℃の温度でハト胸状態に芽だしを行う。
- ⑧ 水がし  
正しい水がし

品種	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月~3月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
早生種 ひとめぼれ	<p>田植え 標高 { 300m以上 5月5日~15日 / 300m以下 5月15日~25日 }</p> <p>【水管理】 深水 (水温20℃以上を保つ) → 間断かんがい → 中干し 溝切りの実施 → 幼穂形成期 間断かんがい → 出穂期 浅水管理 → 稲刈り 落水 (落水は出穂後30日頃を目安とする。落水後乾燥が続く時は走り水をする)</p> <p>【肥料】 基肥 (28kg 土重焼燐) → 追肥 (い〜ね403「改」 30kg) → 穂肥 (い〜ね707「改」 7~11kg)</p> <p>【病害虫防除】 テクリードCフロアブル 200倍液 24時間浸漬 / タコレート水和剤 500倍液 / 9チカエースB液剤 1000倍液</p>																				
	<p>【土づくり】 稲ワラの腐熟促進、土づくり肥料の施用で地力を高め品質・収量を確保しましょう。</p> <p>【高温障害対策 (白未熟粒)】 コシヒカリ・ひとめぼれ</p>																				
中生種 あきろまん	<p>田植え 5月15日~30日</p> <p>【水管理】 深水 (水温20℃以上を保つ) → 間断かんがい → 中干し 溝切りの実施 → 幼穂形成期 間断かんがい → 出穂期 浅水管理 → 稲刈り 落水 (落水は出穂後30日頃を目安とする。落水後乾燥が続く時は走り水をする)</p> <p>【肥料】 基肥 (28kg 土重焼燐) → 追肥 (い〜ね403「改」 7~9kg) → 穂肥 (い〜ね707「改」 10~15kg)</p> <p>【病害虫防除】 テクリードCフロアブル 200倍液 24時間浸漬 / タコレート水和剤 500倍液 / 9チカエースB液剤 1000倍液</p>																				
	<p>【土づくり】 稲ワラの腐熟促進、土づくり肥料の施用で地力を高め品質・収量を確保しましょう。</p> <p>【高温障害対策 (白未熟粒)】 コシヒカリ・ひとめぼれ</p>																				

## 除草剤散布前後のポイント

### 除草剤の効果

一般的に水田に散布された除草剤はいったん水に溶けて3~4日かけて土壌に吸着され、土壌表面に薬剤の「処理層」(およそ土壌表面の0cm~3cm)を作り、小さな雑草を枯らしたり、発芽させない仕組みです。

### 使用上の留意点

- ① 代かきは丁寧に均平度を保つこと。  
土壌が均平でないとき、深い所に薬剤が多く溜まり、薬害の原因になる場合があります。また、湛水深が不足すると効果ムラの原因となります。代かきを丁寧に、畦の補強をして水深をしっかり保てる圃場環境の整備をしましょう。
- ② 雑草発生前の早めの散布を行いましょう!  
水稲一発除草剤で防除できる雑草の大きさは、おむね決まっています。  
※バッチリ、サラブレッドKAI、ゼータタイガー (バッチリ3葉期まで)
- ③ 除草剤散布後は、3~4日間は湛水状態を保ち補植は行わない。  
効果を安定させるため、3~4日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水や掛け流しをさせましょう。除草剤散布後の補植は水田内を歩行することにより処理層を壊し、効果フレの原因となります。また、補植した苗の根が直接処理層に触れるため、薬害の原因となります。

## 除草剤の使い方

除草剤使用時期	田植前後日数	田植	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
低コスト (一発処理)	バッチリ (1キロ粒剤・フロアブル・ジャンボ)																										
標準 (体系処理)	サキドリEW エリジャンボ																										
高機能 (体系処理) 雑草防除対策	ゼータタイガー (1キロ粒剤・フロアブル・ジャンボ)																										

●低コスト(一発処理)  
●標準(体系処理)  
●高機能(体系処理)

### 後期除草剤 (残草対策)

品種	使用量 (10a)	使用時期	使用方法
ヒエが残った場合	ヒエクリーン1キロ粒剤 1kg / クリンチャージャンボ 1袋20ヶ(1kg)	田植後15日~ノビエ4葉期 (収穫45日前まで) / 田植後7日~ノビエ4葉期 (収穫30日前まで)	湛水散布
ヒエ以外が残った場合	バサグラン粒剤 3~4kg	田植後15~55日 (収穫60日前まで)	落水散布又はごく浅く湛水散布
ヒエと多年生雑草が残った場合	サンバンチ1キロ粒剤 1kg	田植後15日~ノビエ3.5葉期まで (収穫60日前まで)	湛水散布
クサネムイボクサが残った場合	クサネムイボクサ液剤 薬量1000ml (100倍液) / ノミニー液剤 薬量50ml~100ml (2000~1000倍液)	田植後15日~ノビエ5葉期 (収穫50日前まで) / 移植後30日~草丈30cmまで (収穫60日前まで)	落水散布又はごく浅く湛水散布

### 肥料成分表 (%)

肥料名	N(窒素)	P(リン酸)	K(加里)	備考
三次きんさい米基肥	10	14	12	有機30%、pH5.5
い〜ね403「改」	14	10	13	
早生専用一発 M(苦土) 2%	13	16	14	
ネオベスト1号	12	12	12	
ピカイチ302	23	10	12	中生専用一発
い〜ね707「改」	0	0	20	ケイ酸34.0 苦土4.0 ホウ素1.1
ネオベストSR-502	15	10	12	

### 中干しの目安

●小さい電気ができる程度に繰り返す。  
●中干し前に溝切りを行う。  
●小さい溝切りが楽に済む。足跡が残る程度。(ときどき走り水を伴う)。  
●足跡に水が残っている程度。  
●間断かんがいを伴う。

### 葉色値の目安

※使用に当たっては、専用の葉色表を使用して下さい。

葉色値	1	2	3	4	5	6	7
-----	---	---	---	---	---	---	---

### 穂肥の施用目安 (うるち米)

品種	施用時期	適正葉色値	肥料名	使用量
コシヒカリ	出穂18日前	3.5	い〜ね707「改」	7~11kg
ひとめぼれ	出穂20日前	4.5		11kg
中生新千本	出穂24日前	4.0~4.5		12~15kg
あきろまん	出穂24日前	3.5~4.5		10~15kg

●葉色が適正葉色値より濃い場合は、適正葉色になるまで様子を見て施用判断して下さい。食味向上の為、出穂の10日前以降の穂肥は避けましょう。

### 倒伏軽減

溝切り、中干し、間断かんがいで根を健全に保ち、節間の伸長を抑えるとともに、倒伏が予想される場合は倒伏軽減剤の使用も効果的です。

コシヒカリでの倒伏予想の目安 草丈の推移 (出穂前日数)

日数	30日前	20日前	15日前	軽減剤の使用
目安	54cm以上	68cm以上	75cm以上	使用する

倒伏軽減剤使用時期の目安

出穂前日数	ロミカ粒剤	ピビフル粉剤DL	ピビフルフロアブル	ロミカ粒剤
目安	24	20	15	10

●ロミカ粒剤 2~3kg / ゼビフルフロアブル 50ml~100ml / ピビフル粉剤DL 4kg

●黒土・重粘土・土壌は効果が劣るので使用しない。

## 水田からの濁り水流出による河川等の汚濁防止について

### 3つのポイント

1. 畦畔からの水漏れを防止しましょう!
2. 代かき・田植え時に排水口から漏水がないよう確認しましょう!
3. 浅水で代かきし、田植え前の落水を行わないようにしましょう!